

性別役割規範システム把握に向けての方法論的検討 ——国際比較研究を目指して——

吹野 卓*・片岡 佳美*

Understanding the Structure of the Gender Role Norms :
A Pilot Study for the International Comparative Study

Takashi FUKINO, Yoshimi KATAOKA

キーワード：性別役割規範、規範意識構造

1. はじめに

筆者らは以前、日本、トルコ、アメリカの大学生を対象とした意識調査のデータを用いて、性別役割規範意識に関する分析を行った(片岡・吹野ほか、2011)。その報告論文において、性別役割規範は文化の国際比較の素材として非常に適していることを指摘した。

規範意識の国際比較を行う際、われわれはそれぞれの規範がその社会で解釈される文化的・状況的多様性という問題にぶつかる。「家族は大切にすべき」といっても、社会によってそもそも「家族」の定義づけは異なる。その点、性別役割についての意識を比較分析の対象にすることは、次のようなメリットがある。すなわち、①男女という社会的な区分はどの社会でも何らかの形で存在している、②そして人々の在り方の基本的構成原理のひとつを構成しており、③性別役割に関する規範は、「その規範を内面化している人(以下、「担

い手」という)の性別」(すなわち回答者の性別)と「規範で言及される人(以下、「対象者」という)の性別」(たとえば「男はこうあるべきだ」といった場合の「男」など)の組み合わせが比較的明瞭で比較分析を行い易いという特徴を持っている。

ただし、われわれが以前報告した2011年の分析において用いたデータは、必ずしも幅広い文化の比較を目的としたものではなく、男女関係における性別役割に関連する質問項目に限定されていた。またさらに、規範の「担い手」と「対象者」の性別組み合わせの分析ができる項目は少数に限られていたという問題があった。それぞれの社会の性別役割規範意識の構造を浮き彫りにするには、より幅広い領域における性別役割規範を扱う必要がある。

上記をふまえ、本稿では、今後の国際比較調査のための準備作業をすることを目的とする。さまざまな領域の性別役割規範を扱うと

*島根大学法文学部社会文化学科

した場合、どういう点に留意して「さまざまな領域」を取り上げればよいのか、その点が問題となる。今回、そのような問いについて考えるため、日本の大学生のみを対象にした予備調査を行った。その分析を通して、質問項目としてどのような内容の規範を含めていけば良いのかを手探りで考えていく作業を行いたい。

2. データについて

今回用いるデータは、2012年7月に島根大学の教養科目の授業を履修している学部学生を対象として収集したものである。教養科目であるため1年生が大半を占めており、有効回答者数は310人、うち男性が194人(62.6%)、女性が116人(37.4%)となっている。

質問項目の大半は様々な問題に関して、「男は〇〇であるべきだ」という質問と「女は〇〇であるべきだ」という質問のペアからなっている。すなわちたとえば、「男は几帳面であるべきだ」と「女は几帳面であるべきだ」の両方が含まれている。本稿では、この「男は／女は」の部分で「規範の対象者の性別」と呼び、「几帳面であるべきだ」に相当する部分を「規範内容」と呼びたい(実際の質問文については付表を参照のこと)。

このような質問のペア(すなわち「規範内容」)は調査票に45個あるが、質問の順はランダムに並び変えてあり、回答者は男についての質問とそれに対応する女についての質問を連続して回答するわけではない。回答は「そう思う」から「そう思わない」までの5点尺度で測定しており、分析においては「そう思う」を5点、「そう思わない」を1点としている。なお質問票にはこれらの項目以外に、回答者の性別など基本属性および両性間の平等

などに関する意識に関する質問項目も幾つか含まれている。

3. 性別役割規範の領域についての検討

ここでは、今回の調査に含まれている個々の「規範内容」がどのような領域に関するものであるのかの暫定的な区分を行いたい。

むろん調査票のデザインを行う際に、思いつく範囲で様々な領域に関する「規範内容」を含めるような考慮は行った。これは極めて恣意的な方法ではあるが、手始めとしては致し方ないことではある。このような恣意的な実査前の区分を再検討するために、まずは各質問項目が言及している規範の対象者の男女別に2つの因子分析を、全回答者(つまり回答者には男女ともを含む)のデータを用いて行った。ただし、対象者の男女間で有意な差が無い質問項目(5項目)は除外している。ここで検討したいのは性別役割規範であるので、規範の対象者の性別で差が無いものはそもそも性別役割規範とは思われないからである。また、規範の対象者を男女別にしたのは、男性に対する規範システムと女性に対する規範システムが同一である理由は特に無いからである。なお因子分析はスクリープロットから判断してそれぞれ5つの因子を主因子法で抽出し、プロマックス回転をおこなっている。この因子分析の結果の因子負荷量の表は付表として末尾に掲載しておいた。

さて、このような因子分析により、各「規範内容」が、規範の対象者の男女別に抽出された第何因子と高い因子負荷量を示すのかを知ることができる。その結果を示したのが表1の中央部分である。また表1の右端には、一方でこの結果を踏まえつつ、また一方で調査票デザインの際に考えていた領域部分をも踏まえて、とりあえずの領域区分ラベルを付け

表1 因子分析結果と意味を考えた暫定的領域区分

規範内容 (略称)	高い因子負荷を示した因子番号		意味を考えたつづけた暫定的領域区分ラベル
	男性を規範対象とした質問項目の因子分析	女性を規範対象とした質問項目の因子分析	
聞き上手	1	1	社交
らしい体	1	1	身体外見
性リード	1	2	異性関係
結婚申込	1	2	異性関係
日曜大工する	1	2	夫婦分担
夫婦間自己主張ダメ	1	2	夫婦関係
リーダー	1	3	強い性格
正義感	1	3	強い性格
決断力	1	3	強い性格
異性に優しく	1	3	異性関係
異性を守る	1	3	異性関係
尊敬される	1	3	強い性格
広い付き合い	1	3	社交
力仕事	1	3	身体外見
収入で家計	1	3	夫婦分担
スポーツ	1	4	能力
運転	1	4	能力
話題豊富	1	4	能力
高い地位	2	3	三高
背高	2	4	三高
収入高	2	4	三高
学歴高	2	4	三高
数学得意	3	2	能力
物怖じせず	3	2	弱さ許容
化粧	3	2	身体外見
デート代	3	2	異性関係
しゃべり	3	2	悪徳許容
虫怖い	3	2	弱さ許容
弱さ見せダメ	3	2	弱さ許容
夫婦間意思決定	3	2	夫婦関係
料理上手	4	1	能力
洗濯する	4	1	夫婦分担
炊事する	4	1	夫婦分担
子育て優先	4	1	夫婦分担
家計管理する	4	1	夫婦分担
夫婦間立てるべき	4	1	夫婦関係
痩せ魅力	5	4	身体外見
異性経験許容	5	5	悪徳許容
ワル	5	5	悪徳許容
ワガママ	5	5	悪徳許容

てみた。たとえば「物怖じしてはいけない」は、裏返せば「物怖じしてもよい」という意味をもつ。因子負荷量にはプラスのものもあればマイナスのものもあるので、それを考慮して裏返された意味で付けたラベルもある。因子分析の結果は必ずしも全てがスッキリと意味的に理解できるものではないにせよ、ある程度は意味的な纏まりを持っているのかと気づかされる点もあり、この作業を介することによって調査票デザインの際に想定していたものよりは若干ながらも区分の妥当性が上昇したのではないかと思われる。

ここでは、因子分析による経験的区分を眺めつつ「規範内容」の意味を考えながら暫定的な領域区分を試みたが、この区分が何らかの有効性を持つものであるのか否かは、更なる分析によって試されていくことになる。

4. 分析結果の表記法

本稿の冒頭で述べたように、性別役割規範には「その規範の担い手の性別」（分析上は回答者の性別）と「その規範が言及している対象者の性別」の組み合わせがシンプルであるという特徴がある。この組み合わせを図示したのが図1である。

このような組み合わせの各セルに、今回の

データから求めた平均得点を入れることができる。「規範内容」が「リーダー」の場合を例示したものの図2である。すなわち、「男はリーダーシップを発揮するべきだ」という問いに対する男性回答者の平均得点は3.80点（セルⅠ）、女性回答者の平均得点は3.64点（セルⅢ）であり、「女はリーダーシップを発揮するべきだ」という問いに対する男性回答者の平均得点は2.94点（セルⅡ）、女性回答者の平均得点は3.16点（セルⅣ）である。またこの図には「ヨコ検定」と「タテ検定」の欄を設けて、5%水準で有意だったものに「*」を1%水準で有意だったものに「**」を付けてある。すなわち、「ヨコ検定」の上の「**」はセルⅠとⅡの間で平均値に有意な差があったことを、下の「**」はセルⅢとⅣの間に有意な差があったことを示している。また「タテ検定」の「*」はセルⅡとⅣの間に有意な差があったことを示している。なお「ヨコ検定」は同一の回答者が男を規範の対象者とする問いと女を規範の対象者とする問いの両方に回答しているため、対応のあるサンプルのt検定を行い、「タテ検定」は、独立したサンプルのt検定を行っている。

さて、図2のような分析結果の表記の仕方は見やすくはあるものの、多数の「規範内容」

		規範の対象者の性別	
		男	女
規範の担い手(回答者)の性別	男	Ⅰ	Ⅱ
	女	Ⅲ	Ⅳ

図1 規範の担い手と対象者の性別の組み合わせ

		規範の対象者		
		男	女	ヨコ検定
リーダー	回答者	男	女	**
		3.80	2.94	
		3.64	3.16	**
	タテ検定		*	

図2 「リーダーシップを発揮するべき」の各セルの平均値

表2 次節で用いる表記法

規範内容	回答男		回答女		ヨコ検定				タテ検定			
	I 対象男	II 対象女	III 対象男	IV 対象女	I	II	III	IV	I	III	II	IV
リーダー	3.80	2.94	3.64	<u>3.16</u>	**		**					*

について一覧するには不便であり、また大量の紙幅が必要となる。そこで次節では図2と同じ情報を一行で表記したい。すなわち表2のようにである。

表2と図2が同じ情報を示していることは見比べれば理解して頂けると思われるが、見難さを補うために、ヨコ検定で有意だったものについては高かった方の値を太字にし、タテ検定で有意だったものについては高かった方の値にアンダーラインを引いてある。

5. 領域区分と性別役割規範の状況から示唆されること

さて本稿の目的は「はじめに」で述べたように、性別役割規範の国際比較研究において、質問項目としてどのような内容の規範を含めていけば良いのかを手探りで考えていくことにある。そのために、各「規範内容」について、規範の担い手（分析上は回答者）の性別と規範の対象者の性別の組み合わせとどのような関係を持っているのかを見たい。

表3は、各「規範内容」について前節の4つのセル（I～IV）の平均値を示したものである。この表では、先に付けた暫定領域区分レベルごとに区切り線を入れてある。

美しい結果とは言えないものの、それでも幾つかの事が表3から示唆されるのではなからうか。

第一に、表3の上の方に記した「夫婦分担」と「能力」と暫定的に区分した規範内容においては、「タテ検定」で有意となっているものが少ないように思われる。「タテ検定」が有意でないということは、対象男にせよ対象女にせよ回答者の性別による違いがあまり存在していないということである。これらの区分に含まれている規範内容が、性格や属性ではなく、より具体的な行動レベルのものである点は興味深い。すなわち、規範内容が具体的な行動に関するものであるか否かはひとつの分類軸となるのではないかと思われる。

なお「夫婦分担」に分類した「収入で家計」「家計管理する」は「タテ検定」で有意差があ

表3 回答者性別と対象者性別の組み合わせごとの各規範内容の平均得点

暫定領域 区分ラベル	規範内容	回答男		回答女		ヨコ検定			タテ検定				
		I 対象男	II 対象女	III 対象男	IV 対象女	I	II	III	IV	I	III	II	IV
夫婦分担	洗濯する	3.52	3.52	3.41	3.59			*					
夫婦分担	炊事する	3.41	3.62	3.39	3.61	*		*					
夫婦分担	子育て優先	2.99	3.47	3.04	3.43	**		**					
夫婦分担	日曜大工する	3.75	2.41	3.63	2.57	**		**					
夫婦分担	収入で家計	4.07	3.02	3.96	3.41	**		**				**	
夫婦分担	家計管理する	2.94	3.32	2.89	3.51	**		**				*	
能力	料理上手	3.45	3.66	3.29	3.37	**							
能力	数学得意	2.69	2.43	2.57	2.39	**		*					
能力	スポーツ	3.59	3.00	3.71	3.05	**		**					
能力	運転	4.29	3.84	4.17	3.97	**		**					
能力	話題豊富	3.77	3.56	3.82	3.63	**		**					
異性関係	性リード	3.19	<u>2.65</u>	3.38	2.30	**		**				**	
異性関係	異性に優しく	4.16	3.56	3.98	<u>3.78</u>	**		**				*	
異性関係	異性を守る	4.05	2.47	3.88	<u>2.85</u>	**		**				**	
異性関係	デート代	<u>3.26</u>	2.38	2.68	2.60	**				**			
異性関係	結婚申込	3.31	2.46	3.43	2.45	**		**					
夫婦関係	夫婦間自己主張ダメ	2.42	<u>2.28</u>	2.33	2.05			**				*	
夫婦関係	夫婦間立てるべき	<u>3.16</u>	3.15	2.89	3.22			**		*			
夫婦関係	夫婦間意思決定	3.22	2.65	2.78	2.70	**				**			
強い性格	リーダー	3.80	2.94	3.64	<u>3.16</u>	**		**				*	
強い性格	正義感	3.84	3.19	3.84	<u>3.41</u>	**		**				*	
強い性格	決断力	4.20	3.34	4.06	<u>3.69</u>	**		**				**	
強い性格	尊敬される	3.59	3.14	3.44	<u>3.47</u>	**						**	
弱さ許容	物怖じせず	2.81	2.47	2.48	2.48	**				**			
弱さ許容	虫怖い	3.79	4.06	3.76	4.20	**		**					
弱さ許容	弱さ見せダメ	2.76	2.02	2.25	<u>2.25</u>	**				**		*	
三高	背高	3.09	2.53	3.54	2.60	**		**		**			
三高	収入高	3.81	2.73	3.63	<u>3.03</u>	**		**				**	
三高	学歴高	3.37	2.79	3.16	2.78	**		**					
三高	高い地位	3.49	3.12	3.33	3.25	**							
社交	聞き上手	3.67	3.05	3.21	2.95	**		**		**			
社交	広い付き合い	<u>3.63</u>	3.10	3.32	3.15	**				**			
身体外見	痩せ魅力	2.89	3.08	2.86	3.23	*		**					
身体外見	らしい体	3.38	3.57	3.50	3.47	*							
身体外見	化粧	3.15	4.43	3.24	4.58	**		**				*	
身体外見	力仕事	3.96	2.14	3.73	2.41	**		**		*		**	
悪徳許容	異性経験許容	3.09	<u>2.82</u>	2.73	2.53	**		*		**		*	
悪徳許容	ワル	2.97	2.72	3.09	3.00	**						*	
悪徳許容	ワガママ	2.45	2.90	2.37	2.78	**		**					
悪徳許容	しゃべり	3.76	3.91	4.05	4.04	*				**			

るが、これが単純な行動レベルだけでなく経済力という男女が置かれた社会的位置や、男女間の勢力関係の問題とも結び付きうる規範内容である点も考慮に値する。しかし考えれば、「異性関係」に分類した項目も、ある意味具体的な行動レベルのものであるが、こちらにも「タテ検定」が有意となっているものが多く、これらについてもやはり男女間の勢力関係との関連が濃厚な点はやはり示唆的である。これは「夫婦関係」に分類されている規範内容についても当てはまるであろう。すなわち、表3から示唆される第二の点として、規範内容の男女間の勢力関係との関連の度合いもひとつの分類軸となる可能性があると言えよう。

第三に「強い性格」に分類した規範内容では、一貫して対象女性についてのタテ検定が有意になっている点にも注目したい。アンダーラインの位置をみれば、女性回答者ほど女性も強い性格を持っていても良いと考えていることがわかる。これらの規範内容は、一般に社会で肯定的に評価されている性格であることを考えれば、それを男性の役割とみなされていることに対する一部の女性の違和感が反映されたものなのかも知れない。すなわち、一般に肯定的に評価されている規範内容であるか否かという点も、またひとつの分類軸となり得るのかもしれない。

さて以上、表3を眺めつつ、①規範内容の

行動レベルとしての具体性、②男女間の勢力関係との関連の度合い、③規範内容の一般的な評価の肯定度、といった分類軸が示唆されると述べてみた。しかし実のところ、これらは「そんな気もする」といった程度の話に過ぎない。大切な「気づき」の第一は、性別役割規範システムの調査で用いる質問項目（＝規範内容）は、このような複数の分類軸に沿って散らばりを持たせたものを用意していかねばならないという点である。むろん、上で「示唆された」と述べた3つの分類軸以外にも、様々な分類軸を想定することが可能だと思われる。従って、次なる「予備調査」においてはこの点を配慮した質問項目からなる質問票を用いて、次なる一歩へと繋げたい。

もう一つの大切な「気づき」については、節を改めて述べよう。

6. 規範の担い手と対象者の組み合わせからの策出

前節で表3を眺める際に手がかりとしたのは、図1のヨコ方向の差違とタテ方向の差違のパターンであった。われわれの今回の予備調査データ、すなわち表3においてもそのパターンは何通りか存在している。しかし、理論的にあり得る全てのパターンが存在していたわけではむろん無い。

ここでは、各セルの平均値の高い順に、◎、

		規範対象者	
		男	女
規範担い手	男	◎	△
	女	○	×

		規範対象者	
		男	女
規範担い手	男	◎	△
	女	×	○

図3 担い手の性別による逆転パターンの可能性

○、△、×として、あり得るパターンについて考えてみよう。

まず基本的な問題として図4の左と右のような違いが理論的には考えることができる。すなわち、左図では規範の担い手が男女ともに「男の方がそうあるべきだ」と思っているケースである。それに対し右図は、男性担い手は「男の方がそうあるべきだ」と思っているのに対し女性担い手は「女の方がそうあるべきだ」と思っているという、担い手の性別によって逆転現象が生じているパターンである。今回のテスト調査には、そのような逆転

を示す規範内容は見つからなかった、しかし、稀な現象であるにせよ、あり得ないパターンなのであろうか。

上述のような逆転が無い場合にも様々なパターンは考えられ、実際表3にも幾つかのパターンが確認される。

これらのパターンの違いを整理するためには、例えば、図4に示したような「同性/異性」の組み合わせを用いることが考えられる。

図4の組み合わせを具体的に考えてみよう。図5の左右は「男性の方がそうあるべきだ」という点では担い手の両性で一致しているが、その差異が左図では同性に対してより明瞭であるのに対し、右図では異性に対してより明瞭なものとなっている。

また、図6の左右は同性明瞭型と異性明瞭型の何れでもないが、左図ではこの規範が男性担い手で強く持たれているのに対し、右図では女性担い手によって強く持たれている。

以上のように、表3を眺めることを通して、われわれはもう一つの意義ある「気づき」を

		規範対象者	
		男	女
規範担い手	男	同性	異性
	女	異性	同性

図4 同性と異性の組み合わせ

		規範対象者	
		男	女
規範担い手	男	◎	△
	女	○	×

		規範対象者	
		男	女
規範担い手	男	○	×
	女	◎	△

図5 同性明瞭型と異性明瞭型

		規範対象者	
		男	女
規範担い手	男	◎	×
	女	○	△

		規範対象者	
		男	女
規範担い手	男	○	△
	女	◎	×

図6 男性担い手強型と女性担い手強型

得ることができた。すなわち、このような「考え得る組み合わせパターン」が、次なる調査に含めるべき質問項目を策出的に見いだすための素材となるという点である。すなわち今回の結果を再検討し、欠けているパターンになりそうな規範内容は如何なるものであるのかを考えていく必要があるだろう。

7. おわりに

筆者らは、以前の調査でチームを組んだトルコとアメリカの研究者と共同して、近い将来に性別役割規範に関する国際比較研究を実施することを計画中である。本稿はそのための準備作業である。

この国際比較研究は、文化現象の国際比較の手法の開発という方法論的目的を持つものである。冒頭でも述べたように、特に性別役割規範を素材としているのは、そのための素

材として極めて適していると判断したためである。

文化現象の国際比較研究、特に質問紙を用いた量的調査においては、根本的に比較可能なかという問題から問い直さなければならない状況がある。本稿は、真に比較可能な比較研究手法の開発のための、そのまた準備作業という位置づけのものに過ぎないが、次なる予備調査に向けて前進する一歩となったと思っている。

【参考文献】

片岡佳美、吹野卓、Tanya Koropeckyj-Cox、Zeynep Çopur、2011、「性別役割規範意識構造の国際比較研究についての考察」、『島根大学法文学部紀要社会文化論集』、7号、pp.85-94.

付表1 質問票で用いた性役割に関する質問文ペアの一覧

規範内容略称	質問文のペア	
	言及されている規範の対象が男性	言及されている規範の対象が女性
料理上手	男は料理が上手であるべきである	女は料理が上手であるべきである
異性経験許容	男は女性経験が多くてもよい	女は男性経験が多くてもよい
性リード	性的な関係においては男が女をリードするべきだ	性的な関係においては女が男をリードするべきだ
愛無しダメ	男は愛のない相手と性的な関係をもつべきではない	女は愛のない相手と性的な関係をもつべきではない
痩せ魅力	男は痩せている方が魅力的である	女は痩せている方が魅力的である
背高	男は背が高い方がよい	女は背が高い方がよい
収入高	男は収入が高い方がよい	女は収入が高い方がよい
学歴高	男は学歴が高い方がよい	女は学歴が高い方がよい
数学得意	男は数学が得意であるべき	女は数学が得意であるべき
几帳面	男は几帳面であるべきである。	女は几帳面であるべきである。
ワル	男は少しワルでもよい	女は少しワルでもよい
酔って良い	男は人から介抱されるほど酔っぱらってもよい	女は人から介抱されるほど酔っぱらってもよい
リーダー	男はリーダーシップを発揮するべきだ	女はリーダーシップを発揮するべきだ
聞き上手	男は聞き上手であるべき	女は聞き上手であるべき
正義感	男は正義感が強いべきである。	女は正義感が強いべきである。
決断力	男は決断力があるべきである。	女は決断力があるべきである。
物怖じせず	男は何事にも物怖じしないべきである。	女は何事にも物怖じしないべきである。
ワガママ	男はワガママでもよい	女はワガママでもよい
らしい体	男は男らしい体つきである方がよい。	女は女らしい体つきである方がよい。
スポーツ	男はスポーツが得意な方がよい	女はスポーツが得意な方がよい
仕事好き	男は仕事好きでよい	女は仕事好きでよい
異性に優しく	男は女に優しくするべきだ	女は男に優しくするべきだ
異性を守る	男は女を守るべきだ	女は男を守るべきだ
化粧	男が化粧に気を使ってもよい	女が化粧に気を使ってもよい
デート代	男はデートの食事代を払うべきである	女はデートの食事代を払うべきである
結婚申込	結婚の申込みは男からするのが良い	結婚の申込みは女からするのが良い
しゃべり	男がおしゃべりでもよい	女がおしゃべりでもよい
高い地位	男は社会的に高い地位を目指す方がよい	女は社会的に高い地位を目指す方がよい
尊敬される	男は他人から尊敬されるようになるべきである	女は他人から尊敬されるようになるべきである
広い付き合い	男は幅広い人付き合いをするべきである	女は幅広い人付き合いをするべきである
運転	男は車の運転ができた方がよい	女は車の運転ができた方がよい
話題豊富	男は話題が豊富な方がよい	女は話題が豊富な方がよい
力仕事	男は力仕事などを率先してするべきだ	女は力仕事などを率先してするべきだ
虫怖い	男が虫を怖がってもよい	女が虫を怖がってもよい
弱さ見せダメ	男は弱さを人にみせてはいけない	女は弱さを人にみせてはいけない
洗濯する	夫は洗濯をするべきだ	妻は洗濯をするべきだ
炊事する	夫は炊事をするべきだ	妻は炊事をするべきだ
子育て優先	夫は子育てを最優先にするべきだ	妻は子育てを最優先にするべきだ
日曜大工する	夫は家の修理などの日曜大工ができるべきだ	妻は家の修理などの日曜大工ができるべきだ
収入で家計	夫は収入を得て家計を支えるべきだ	妻は収入を得て家計を支えるべきだ
家計管理する	夫は日常的な家計の管理をするべきだ	妻は日常的な家計の管理をするべきだ
夫婦趣味に時間	夫が個人的な趣味に時間を割くのは良いことだ	妻が個人的な趣味に時間を割くのは良いことだ
夫婦間自己主張ダメ	夫はあまり自己主張しない方がよい	妻はあまり自己主張しない方がよい
夫婦間立てるべき	夫は妻を立てるべき	妻は夫を立てるべき
夫婦間意思決定	家族の重大な意思決定は最後は夫がおこなうべきだ	家族の重大な意思決定は最後は妻がおこなうべきだ

注)規範内容略称の欄に網がけされている項目は、対象者の男女間で有意差が見られなかったため、本文中では使用していない。

付表 2a 男性を対象とする規範項目に関する因子分析結果 (因子負荷量)

規範内容	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子	第 5 因子
異性を守る	0.89	-0.11	-0.03	-0.04	-0.08
異性に優しく	0.86	-0.19	0.03	-0.07	-0.09
決断力	0.72	0.04	-0.01	-0.07	-0.05
力仕事	0.70	0.02	-0.01	-0.09	-0.17
運転	0.70	0.17	-0.23	0.00	-0.05
収入で家計	0.65	-0.04	0.00	0.15	0.03
性リード	0.57	-0.14	0.28	-0.09	0.09
正義感	0.56	-0.01	0.17	-0.07	-0.06
日曜大工する	0.51	-0.03	0.05	0.24	0.04
リーダー	0.47	0.08	0.16	0.06	0.07
結婚申込	0.46	0.03	0.24	-0.16	0.13
らしい体	0.45	0.05	0.25	0.02	0.06
話題豊富	0.41	0.19	-0.06	0.07	0.14
尊敬される	0.40	0.19	0.09	0.13	-0.05
聞き上手	0.38	0.10	0.00	0.22	-0.01
夫婦間自己主張ダメ	-0.37	0.03	0.32	0.30	0.14
スポーツ	0.37	0.25	0.11	0.04	0.10
広い付き合い	0.31	0.31	-0.08	0.08	0.15
収入高	0.13	0.86	-0.09	-0.11	-0.14
学歴高	0.00	0.77	-0.03	0.05	-0.07
高い地位	-0.06	0.72	0.07	-0.20	-0.06
背高	0.15	0.31	0.17	-0.12	0.15
物怖じせず	0.21	0.00	0.57	-0.08	0.04
虫怖い	-0.22	0.25	-0.54	0.07	0.03
しゃべり	0.29	0.10	-0.54	-0.06	0.17
化粧	-0.03	-0.15	-0.46	-0.01	0.16
弱さ見せダメ	0.06	0.12	0.40	-0.03	0.00
数学得意	-0.07	0.17	0.40	0.19	0.04
夫婦間意思決定	0.16	-0.03	0.38	0.11	-0.08
デート代	0.17	0.20	0.32	0.00	0.01
炊事する	0.18	-0.17	-0.09	0.70	-0.02
洗濯する	0.17	-0.18	-0.14	0.70	-0.06
家計管理する	-0.18	0.04	0.10	0.54	-0.07
料理上手	0.22	0.14	-0.02	0.41	0.11
子育て優先	-0.05	-0.14	0.09	0.36	-0.10
夫婦間立てるべき	-0.05	0.18	0.13	0.30	-0.10
ワガママ	-0.12	-0.18	0.00	-0.09	0.69
異性経験許容	-0.02	-0.04	-0.14	-0.05	0.48
ワル	0.04	0.00	-0.16	-0.14	0.46
痩せ魅力	-0.06	-0.06	0.13	0.01	0.26

注) 抽出因子数を 5 とし主因子法で因子を抽出し、プロマックス回転している。

付表 2b 女性を対象とする規範項目に関する因子分析結果 (因子負荷量)

規範内容	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子	第 5 因子
炊事する	0.87	-0.06	-0.11	-0.09	0.06
子育て優先	0.71	0.04	-0.04	-0.09	0.03
洗濯する	0.68	0.02	0.14	-0.12	0.09
家計管理する	0.66	0.05	0.17	-0.25	0.06
夫婦間立てるべき	0.63	0.12	-0.08	0.08	0.02
料理上手	0.58	0.03	-0.03	0.18	-0.08
聞き上手	0.41	0.16	0.25	-0.05	-0.07
らしい体	0.40	-0.04	0.12	0.30	-0.07
虫怖い	0.01	-0.60	0.16	0.08	0.18
化粧	0.03	-0.57	0.10	0.16	0.08
結婚申込	-0.02	0.54	0.12	0.13	0.16
弱さ見せダメ	-0.09	0.46	-0.04	0.33	-0.10
性リード	0.16	0.46	0.14	0.01	0.16
日曜大工する	-0.03	0.43	0.35	0.05	0.11
しゃべり	-0.04	-0.42	0.23	0.09	0.34
物怖じせず	0.07	0.41	0.25	0.03	-0.22
夫婦間自己主張ダメ	0.40	0.41	-0.26	0.08	0.10
数学得意	0.01	0.40	0.01	0.31	-0.09
デート代	0.04	0.31	0.23	-0.07	0.10
夫婦間意思決定	0.15	0.21	0.06	0.03	0.17
異性を守る	-0.04	0.18	0.66	-0.21	0.07
決断力	0.10	-0.20	0.61	-0.14	0.04
力仕事	-0.31	0.38	0.48	-0.05	0.06
リーダー	-0.03	0.13	0.46	0.11	-0.05
尊敬される	0.16	0.02	0.43	0.21	-0.25
正義感	0.13	0.00	0.43	0.06	-0.17
収入で家計	0.19	0.16	0.36	0.07	0.14
広い付き合い	0.13	0.05	0.34	0.08	0.06
異性に優しく	0.25	-0.29	0.34	-0.02	-0.15
高い地位	-0.07	-0.02	0.27	0.20	0.14
収入高	-0.21	0.01	0.01	0.70	0.11
背高	-0.14	0.10	-0.19	0.67	0.11
スポーツ	0.08	0.03	-0.03	0.67	0.10
学歴高	0.06	0.21	0.04	0.49	0.04
話題豊富	-0.03	-0.18	0.35	0.36	0.02
運転	0.06	-0.25	0.12	0.33	-0.18
痩せ魅力	0.15	-0.04	0.09	0.29	0.04
ワガママ	0.23	-0.10	-0.13	0.18	0.59
ワル	-0.06	0.06	0.06	0.13	0.52
異性経験許容	-0.07	0.10	0.14	0.01	0.47

注) 抽出因子数を 5 とし主因子法で因子を抽出し、プロマックス回転している。